

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2018年
6月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

おもてなし

司祭 クレメント 信岡 章人



「近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。」

(ルカ10:34)

2020年、東京オリンピック開催が決まった時、日本を紹介するために掲げた言葉は、「おもてなし」でした。この言葉を耳にした時、前述の聖書が浮かびました。一

体、おもてなしとは何か？ 辞書(大日本国語辞典)を開きました。次の説明がありました。

- ① 意図的にある態度をとること。
 - ② 見せかけの態度をとる。
 - ③ なんとか処置する。
 - ④ 相手を取り扱う待遇をする。
 - ⑤ 大切にすること。
 - ⑥ 手厚く歓待する。
 - ⑦ 取り上げて問題にする。
- おもてなしの目的は、No.1友情の再確認(会えて良かった!)。No.2 期待感の強化(もう一度、会いたい!)でした。

『解放せよ!』

これは現代の教会への皮肉です。教会は、「宿屋」です。傷ついた旅人を運び込むのは、牧師であったり、信者であったりします。宿屋の主人は、「キリスト」です。キリストは、いつでも傷ついた人を快く受け入れようとします。しかし、現実には宿屋のドアは締め切られたままです。連れて行っても入ることが出来ません。教会だけでなく世話人の住む牧師館も閉め切られています。閉じられた教会の理由を尋ねると、色んな答えが返って来ます(詳細はご想像のままに)。

「旅人をもてなすことを忘れてはなりません。」

(ヘブライ13:2)

クリスチャンは、「神様のおもてなし」を自分のものにし

ようとしています(私物化)。他の人に奪われたくないからでしょう。しかし、キリストのおもてなしは、一方的な愛です。無条件です。あなたが有名だから!あなたが高徳だから!あなたが親切だから!と言った条件はありません。それを無償の慈愛と呼びます。本来、クリスチャンは、この真実に忠実に従うと約束しました。しかし、現実には真反対です。可能な限り、人をキリストから遠のけようとしま

す。教会を盛大なものにしよ。と、どんなに立派な絵図面を作っても、立案企画しても、キリスト不在の所に祝福は、決してありません。世話をはじめ、教会全体が心を一つにして、その門戸を開く課題が課せられています。「師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければなりません。」(ヨハネ13:14)

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入つてその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をします。」(ヨハネ黙示録3:20)

『呼び戻せ』

一番、大事なことは、教会にキリストを迎え入れている

(神戸教区退職司祭)